

福島から世界に発信…防災とは？

AMCDRR参加レポート 吉田 恵美子

6月22日。タイ、バンコクを中心街のホテルに隣接するコンベンションホールには、タイ王国をイメージさせるゾウのディスプレイが施され、アジア各国の国旗が並び、国際会議を歓迎する雰囲気が漂っていました。ここで5日間に渡り、第6回アジア閣僚級防災会議が催されました。

この場に招かれ、国連名での招待状を手に参加することとなりました。

依頼の内容は、市民社会組織関連の会議の場で福島の現状に関する報告をすること。ほんの2週間ほどの準備期間で英文のスピーチ原稿を作成し、活動紹介の動画に英語訳をつけ、大慌てで準備をしての参加となりました。

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議であり、これまで2回の会議とも、日本で開催されています。第2回目の神戸市の本体会議では「防災、持続可能な開発、貧困撲滅の三者は密接不可分」「すべての国々が防災の第一義的な責任を持つ」などと明記された「兵庫宣言」や2005年から2015年までの国際的な防災の取組指針である「兵庫行動枠組」(=HFA)が採択されました。第3回は2015年3月に東日本大震災の被災地でもある仙台で開催され、主に兵庫行動枠組(HFA)の後継枠組(HFA2)の策定が行われる予定です。(2015防災世界会議日本CSOネットワーク[JCC2015]事務局資料より)

今後の世界的な防災目標となるHFA2に対して、アジア地域として市民社会組織(CSO)からの意見をまとめるコンサルテーションの開催に際し、自分自身の3.11の経験と福島で今なお続く混乱した状況、そしてこの現実から立ち上がり未来を描こうとしている取り組み等を伝えることが求められたのでした。

東日本大震災から3年以上が経過し、世界の趨勢としては既に過去の災害として片付けられている状況にあると言います。実はまだ14万人が避難生活を送り、地域社会に暗い影を落としていることを改めて知ってもらわなければならないとの思いが胸にありました。サイクロンや津波といった自然災害だけではなく、原発事故といった人的災害、技術的災害に備える必要があることを、認識してもらわなければならないと思っていました。そして、そうした状況の中にあっても未来を築こうとする取り組みが行われていることを知ってもらいたいとの思いで行ったスピーチでした。

私からの最後のメッセージは、「来年の仙台での会議の際には、福島にも訪れて本当の福島をご自身の体験を通して知ってください」でした。会議の後で、アジア各国の女性グループリーダーから声をかけられました。バングラデシュから参加していた女性からは、「自分たちの組織でも参考になる部分が沢山あったので、動画をコピーさせてもらえないか?」との言葉をもらいました。福島がアジアに向け、世界に向け、発信力を持つことの必要性を痛感したひと時でした。

今回は、他にも福島大学の先生方や福島連携復興センター(通称:れんぶく)のスタッフも共に参加し、20名近くがJCC2015のチームメンバーとして関連する様々な場で発言をしました。福島の経験が、将来に向けた世界的な叢智になる日が来ることを望まずにはられません。



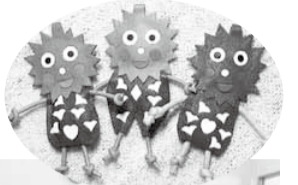
江名幼稚園児に素敵なプレゼント！

7月18日、市立江名幼稚園の終業式のあと行われた夏まつりの席上、手作りの革製ペンダントの贈呈式が行われました。本会の古着リサイクルで回収された革製品を活用しプレゼントを提案してくださったのは、小名浜洋光台の自宅の工房で仲間たちと革工芸を楽しんでおられる横井憲児さんです。

横井さんは震災直後から小名浜地区復興支援ボランティアセンターに子供たちに元気を与えたいと積み木やレインコート等を寄付して下さっておりました。

今回は「子どもたちがキラキラ輝く太陽の下で大声を出し無邪気に遊ぶ姿、子どもたちの胸にいつもぶら下がっているペンダントが思い出となり、子どもたちが輝く未来へ…ひかりの子どもたちになれば…」との思いで「輝け未来へ ひかりの子どもたち支援プロジェクト」を立ち上げたということです。

顔は輝く太陽の形。その顔にバランスよく描かれた愛くるしい目や口。海を表す半ズボンやスカートには、いわき七浜を表現したという白い貝がらが打ち込まれています。貼りつけるのではなく一つずつ打ち込む作業の苦勞が忍ばれる作品です。完成したペンダントは先生方や父兄、地域の方々が見守るなか園児全員の首に掲げられました。最後に全員で「1・2サンシャイン!」と大きな声で合唱。会場内は園児たちがお互い見せあう微笑ましい光景で溢れていました。



オーガニックコットンの苗木が全国へ

ゴルフボールってご存知ですか?視覚障害者のために作られたスポーツです。ロンドンパラリンピックの金メダリストも参加しての「いわきゴルフボール体験会」が7月12日、いわきサン・アビリティで行われました。

開催の目的は、「ゴルフボールを通して福島の方々と交流し、その土地に触れ、その結果を周囲に発信することで、被災地での復興支援へつながる活動…」というものです。全国から参加した方々の中には、福岡県の方もいらっしました。

この席上オーガニックコットンの苗木が60人参加者全員にプレゼントされました。当日までに20センチほどに成長した苗木にするために、2週間前にポットに種を蒔きビニールハウスで育て、ギリギリ間に合わせる事が出来ました。苗を傷つけず持ち運ぶために考えたのが、大きなペットボトルを利用することでした。20センチの高さで切り離し、さらにポット苗の出し入れを考え4か所に縦の切り込みを入れました。手渡す直前に水分を与え、透明の袋に入れて完成。「元気で育ててね!」との思いを込めてお渡ししました。

このイベントの主催者である(株)アソウ・ヒューマニーセンターの牟田さんから「皆さん大事に育てていますよ、収穫を楽しみにしててください」との嬉しいお電話がありました。

久之浜津波被災エリアに活気と賑わいを

今年の6月から、久之浜の津波被災エリアにおいて、将来賑わいを取り戻すためのイベント「きらきら広場」(久之浜商工会 主催)が開催されています。このイベントに7月からピープルとして参加させていただくことになりました。古着のリサイクルブックとリメイク品のチャリティバザーです。

この春まではヨークベニマル荒川店の店頭で毎月バザーをさせていただいていたのですが、店舗改修工事に伴って開催できなくなってしまいました。バザーがなくなって淋しいね…と言っていたボランティアのメンバーにとっては活躍の場が戻ってきたと喜ばれています。

会場では、かき氷やカニ汁、カジキメンチのお振る舞いもあり、これから建設される防災緑地に対する意見聴取のコーナーも設けられていました。また、お盆に向けてじゃんがら念仏踊りの練習をする若者の姿も見られ、いわきの夏を先取りした1日となりました。

「きらきら広場」は、これから11月まで第1日曜日に開催の予定です。是非、足をお運びください。



第13回 地球市民フェスティバル

今年で13回目となるいわき地球市民フェスティバルは、来年5月にいわきで開催される「いわき太平洋・島サミット2015」を意識した内容で催されることが決まりました。テーマは「島サミットを待ちかねて…」島サミット参加各国との交流促進を目指して、3回目となる太平洋諸国舞踊祭の開催に合わせ、サミット参加国から来られた出演ダンサーとの触れ合いの場づくりやサミット当日に使用する歓迎小旗づくりのワークショップなどを行う予定です。どうぞご家族お揃いでおいでください。



■とき:2014年9月27(土)・28(日)日 10:00~16:00

■ところ:いわき市小名浜アクアマリンパーク

「いわきサンシャインフェスタ2014」会場内
小名浜美食ホテル海側デッキ及びその周辺

事業概要:●太平洋諸国舞踊祭出演ダンサーとの触れ合いミニステージ

●島サミット歓迎用小旗づくりワークショップ

●参加団体の紹介コーナー

●チャリティバザーコーナー (予定)

主催:いわき市民間国際交流・協力団体連絡会 共催:いわき市

私たちの活動を会員として支えて下さい。会費納入をよろしくお願い致します。

会費:活動会費(実際に活動に参加される方と、会報の講読という形で支援して下さる方)……………2,000円/年

賛助会員(資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員)10,000円/年

郵便振替(02110-0-24908)でお送りください。

●イベント情報

■8月10日(日) 記録映画会「のさり 杉本栄子の遺言」

17時 ラトブ

24日(日) ヨークタウンアクロスプラザ定例バザー

■9月1日(日) 久之浜キラキラ広場バザー出店

■9月28日(日) ヨークタウンアクロスプラザ定例バザー

27(土)・28日(日) 地球市民フェスティバル(アクアマリンパーク)

■10月1日(日) 久之浜キラキラ広場バザー出店

26日(日) ヨークタウンアクロスプラザ定例バザー